

都市青少年向けのPR活動について ～体験林業を通じて～

上松・駒ヶ岳森林事務所 ○小瀬木 文武
業務課森林活用係 大前 辰男

発表要旨

当署では、平成4年度から体験林業による環境教育への参画を「都市青少年向けのPR活動」と位置付け対応をしてきたところであるが、過去の実施内容等を振り替えるとともに、平成6年度体験林業に訪れた学校へアンケート調査を実施し、その分析を行い、今後より効果的かつ効率的な体験林業実施のための具体的な手法について検討した。

はじめに

ここ数年森林に対する国民の関心が高まる中で、都市部の小中学校においては、環境教育等の見地から国有林へ修学旅行を利用し体験林業に訪れる学校が増えている。

この体験林業を通じて、地球環境に対する「森林の役割」の理解を深めてもらうとともに、森林を守り育てる「林業」への関心を高めていくことが、重要であると考え。そこで、過去の実施内容等を振り替えるとともに、平成6年度体験林業に訪れた学校へアンケート調査を実施し、その分析を行い、今後赤沢自然休養林を中心に実施する体験林業がより効果的かつ効率的なものとなるための具体的な手法について検討した。

1. 赤沢自然休養林の概要

赤沢自然休養林は、木曾郡上松町の南西約15kmに位置し、木曾ヒノキを主体とした天然林で日本三大美林の一つにも、数えられ、昭和44年に730HAが指定を受け翌45年に開園した。

開園以来の入園者の入込み状況は図-2の通りである。

昭和62年からの森林鉄道の運行や交通網の発達により関東方面からの入込み者も増え、平成2年度以降年間10万人を越える入込み者となり、地元上松町の観光の中心的な場所となっている。

また、本年度はテレビ、新聞等のマスコミにおいても数多く紹介されている。

赤沢自然休養林位置図

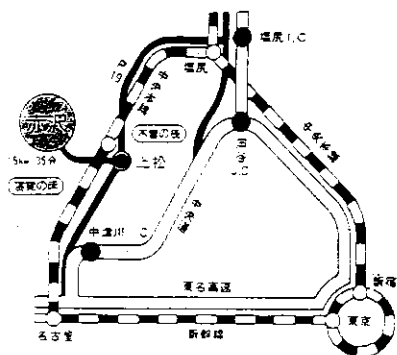


図-1

赤沢自然休養林入り込み客数の推移

昭和46年度～平成6年度

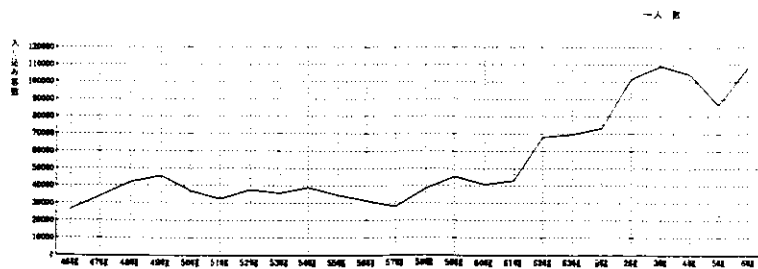


図-2

2. 赤沢自然休養林及びその沿線にある環境教育に使用可能な素材

- (1) 植付・下刈・除伐等の造林作業の体験が可能
- (2) 生産事業地において伐採・集材等の見学が可能
- (3) 赤沢自然休養林内にある「ヒノキと水の森」治山事業地の見学が可能
- (4) 赤沢自然休養林内の森林教室広場・野外ステージにおいて森林学習，森林浴が行える。
雨天時においても森林史料館・森林センター等において対応可能
- (5) 地元製材業者の協力を得て製材所の見学が可能
- (6) 上松町の協力を得て森林鉄道の乗車が可能

3. 平成6年度体験林業の対応状況

当署における体験林業の受入れは平成4年度から本格化し，本年度は千葉県のみならず、東京都の1小学校の計7校が体験林業に訪れた。

(1) 体験林業の実施

平成4年度に作成した環境教育へ提供できる素材の内容及び所要時間をまとめた「カリキュラムのメニュー」（図-3）とカリキュラムのメニューの組み合わせを行う，基本的な「カリキュラムの対系図」（図-4）を説明する中で，学校側の意向，許容時間等の打ち合わせを事前に行い効果的な学習となるよう配慮し，実施した。

カリキュラムのメニュー

| 区分 | 名 称 | 実施場所 | 所要時間 |
|------|---|------------------------------|--------|
| 森林教室 | 森林・林業の役割や重要性 森林業の仕事を紹介 赤沢自然休養林の説明 | 体験林業地 実習場所 | 15～30 |
| 体験体験 | 造林作業の実習 | 赤沢林の広場で の事業地 | 50～120 |
| | 測樹実習・林業機械の操作 現地見学 | | 30～50 |
| 環境教育 | 森林の役割、森林の恵み 森林の構成を体験 天然更新地、生態系を観察 | 環境教育館 | 20～30 |
| | 森林浴 | 体験林業地 森林の構成、運搬 天然更新、歴史 | 90～180 |

これらのメニューから目的に応じて選択し組み合わせる。

図-3

カリキュラムの体系

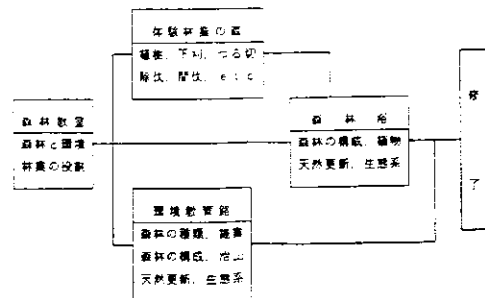


図-4

(2) 学校側が修学旅行に体験林業を取り入れた理由

- ア、 森林と人間生活との深い結び付きについて具体的に理解させたい
- イ、 都会において緑が失われつつある中で，森林の尊さ・大切さを学ばせたい。
- ウ、 森林が育つまでの過程とその苦勞を学ばせたい。

(3) 体験林業の日程

本年度実施した7校の体験林業は①体験植樹②森林教室③森林浴を中心に行い体験林業の時間については，各学校ごとにより異なるが，昼食時間を除きおおよそ2～3時間であった。

今回実施の体験林業の一般的な日程は図-5のとおりである。

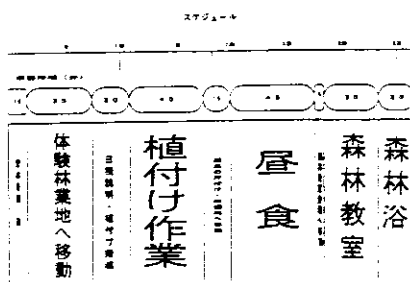


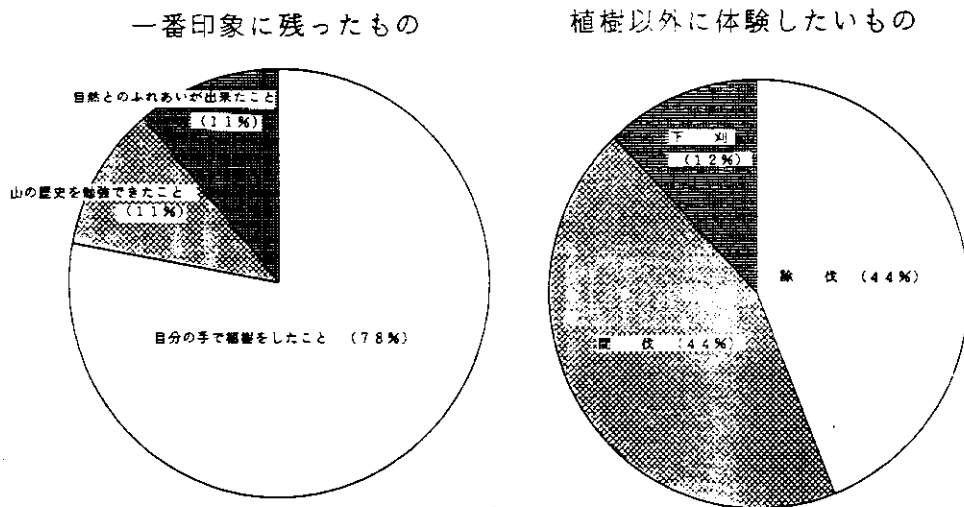
図-5

今回の体験林業では，多くの学校が実際に自分の手で林業体験をさせたい旨の意向があったことから体験植樹を中心の時間配分となった。

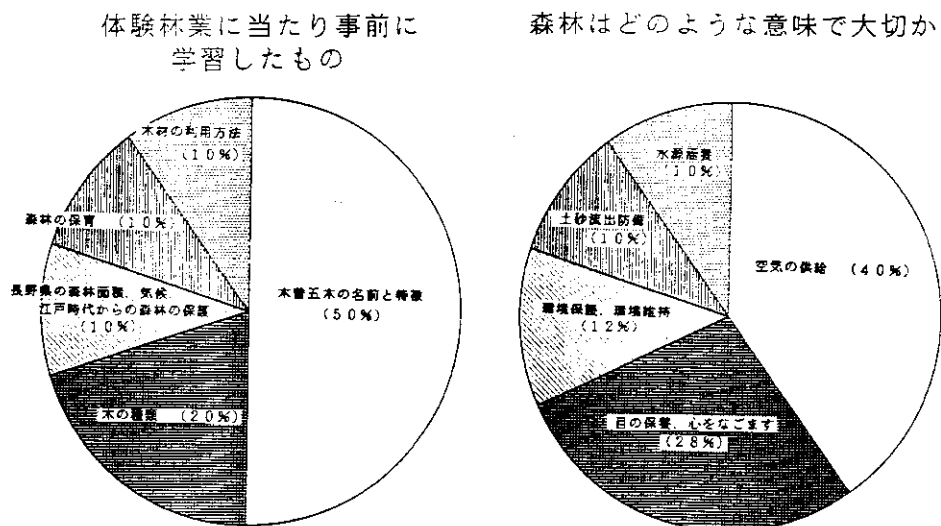
また，森林教室及び森林浴の実施に当たっては，話しの内容，森林浴のコース及び説明内容について事前に学校側に紹介を行い，学生達が興味のある内容となるよう配慮した。

体験林業実施後、今後の実施に当たって実際に体験者の意見等を取り入れていこうとの観点からアンケート調査を実施した。

4. アンケート調査の結果

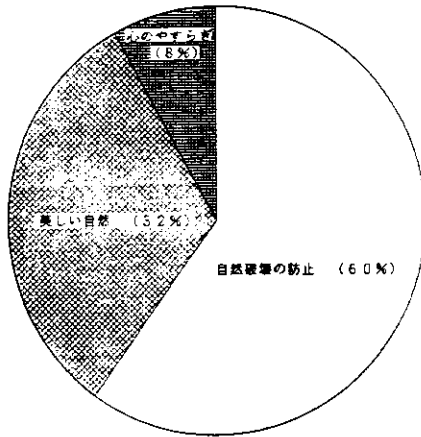


- (1) 「一番印象に残ったもの」との問いについては、自分の手で植樹をしたとの回答が全体の約80パーセントを占めている。
- (2) 「植樹以外に体験したいもの」との問いについては、除伐・間伐がともに44パーセントの回答となった。

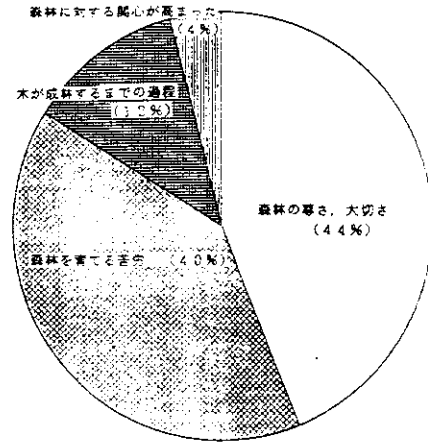


- (3) 「体験林業に当たり事前に学習したもの」との問いについては、体験林業を行なう地が木曾郡内ということもあり半数の生徒が木曾五木の名前と特徴について学習してきた。ほかに木の種類・長野県の森林面積、気候、江戸時代からの森林の保護などかなり勉強してきたことが見受けられた。
- (4) 「森林はどのような意味で大切か」との問いについては、空気の供給が40パーセント、目の保養、心をなごませますが約30パーセントを占めている。

森林に何を求めるか

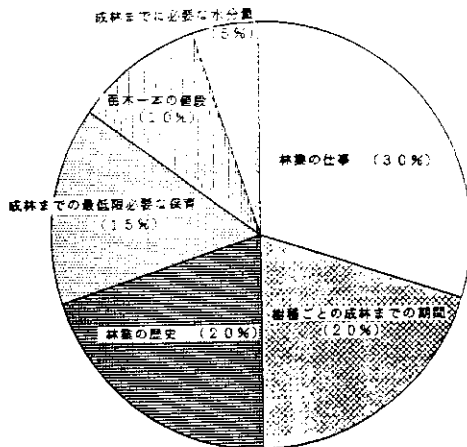


体験林業を通じて得られたもの

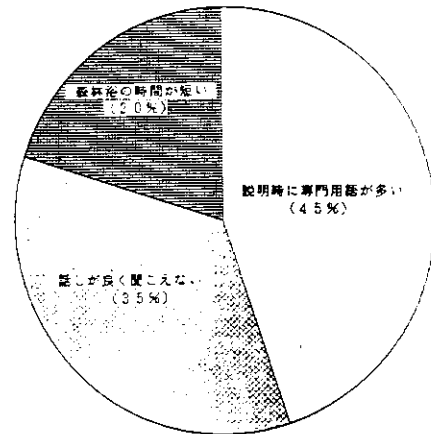


- (5) 「森林になにを求めるか」との問いには、自然破壊の防止を求めるが全体の60パーセント・美しい自然を求めるが32パーセント心の安らぎを求めるが8パーセントとなっている。これを(4)「森林はどのような意味で大切か」との回答と合わせてみると、やはり緑の少ない都市部の小中学生ということもあり森林に対し、森林のもつ公益的機能を求めるイメージが大きいことが見受けられる。
- (6) 「体験林業を通じて得られたもの」との問いには、森林の尊さ、大切さ・森林を育てる苦労との答えが多く返った。

森林教室で聞きたい話



体験林業で不満な点



- (7) 「森林教室で聞きたい話」との問いには、今年度の森林教室では、ほとんどの学校に対し森林全体の大まかな話としたが、この回答から林業の仕事や、歴史・成林までの最低限必要な保育など一歩踏み込んだ森林の仕事のことなどについての話を期待しているものと思われる。
- (8) 「体験林業で不満な点」との問いには、説明時に専門用語が多い・話がよく聞こえない・森林浴の時間が短いとの答えが返ってきた。

以上のアンケート調査の結果をしてみるとおおよそ体験林業実施の目的及び学校側の意向に沿った体験林業が実施できたものと考えられるが、アンケート結果にもあったようにいくつかの不満な点があげられてきており、さらに対応してきた我々のほうからも今後改善していかなければならないと思

われる問題点が出てきた。

5. 問題点と対応策

(1) 森林教室での説明が、一方的になりがちである。

(対応策)

ア、生徒たちに興味をもたせる内容にするため、森林教室でききたい話・受講者の生活環境・林業知識の把握につとめていく。

イ、クイズ形式を取り入れるなどして行きたいと考える。

(2) 専門用語や難しい言葉を説明時に使ってしまい、受講者が理解しにくい。

(対応策)

ア、説明にあたっては、専門用語や難しい言葉をさけるとともに、習独自の分かりやすいテキストを作成し、事前に送付を行ない、テキストを活用した説明を行なって行きたいと考える。

(3) 森林浴の際、一人のインストラクターの受け持つ人数が多くなってしまい、後列の生徒に説明が聞こえない。

(対応策)

ア、一人のインストラクターが受け持つ人員は十人程度が適当であり、参加人数に応じて、インストラクターを配置できるよう、職場内研修の実施及びインストラクター用テキストの充実を図り、インストラクターの養成に努めていきたいと考える。

イ、説明する箇所をポイント化しスムーズに進めるようにすることも考えて行きたい。

(4) 移動時間等のずれにより、全体のプログラムが計画どおりに実行できず、後半のプログラムへしわよせが生じる。

(対応策)

ア、図-6のような営林署から各体験林業の実施場所への距離、所要時間等がひと目でわかる「環境教育マップ」を作成し、学校側との打ち合わせの際の資料として、余裕あるプログラムの作成を行なっていきたいと考える。

イ、場合によっては、移動中のバスの中で森林教室を行なうなど、移動時間の有効活用を図っていきたい。

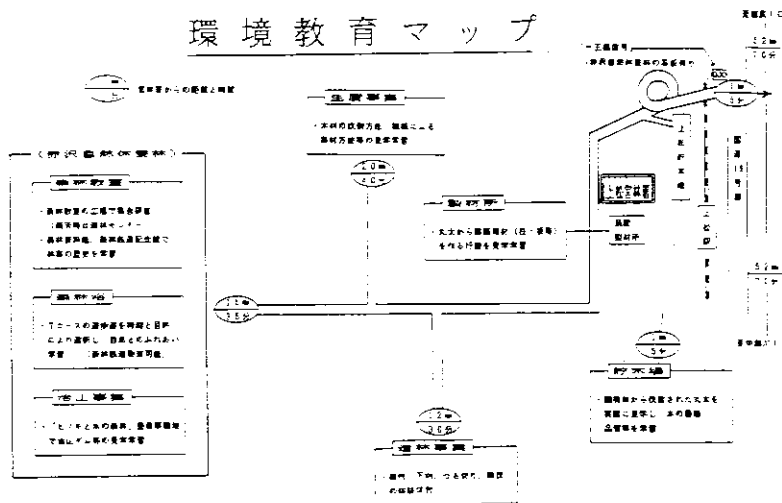


図-6

おわりに

体験林業は若い世代に営林習や森林・林業のことを理解してもらうための最も効果的な方策であると言える。

今回検討した対応策ですべての問題点の解消になるとは思えないが、今後体験林業を実施していく上で、訪れた生徒たちが少しでも森林林業への関心を高めてもらえるよう、常に問題意識をもつ中で、より効果的な体験林業とするために努力していく必要があると考えているので、関係者のみならず広く皆様からのご指導をお願い申し上げたい。